

還暦会員からの
お便り

私が驚いた大会講演

小笠原 徹*

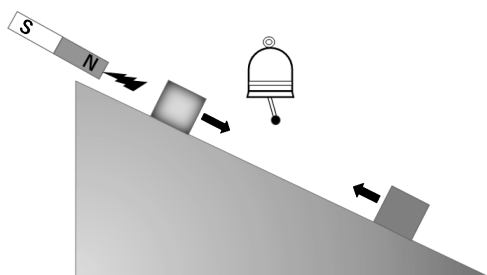
ずっと昔(90年ごろ)ですが、私の思い出に残る、たまげた講演を3つ紹介します。もう時効と思いますので。

① 永久機関

「永久機関」なる講演がありました。当日、そのセッションは大入り満員で、廊下にもあふれ、窓から見ている人もいました。

摩擦のある坂道のふもとに強磁性体のブロックがある。坂の頂上に強力な永久磁石をもってきてブロックを引っ張ると、坂道を登っていくが、そのうち摩擦で温度上昇しキュリ一点を超える。すると強磁性を失って、坂道を滑り落ちる。下まで落ちてしばらくたつと冷めてまた強磁性になるので引き上げられる。毎回、上下するたびにベルをたたく、などの仕事をさせれば永久機関となる。みなさん、いかがでしょうか？

たくさん質問、意見が出ましたが、正しい、正しくない、の結論はでなかったように思います。でも盛り上がりました。



* マツダ株式会社 R&D 技術管理本部

† OHP(Over Head Projector), 当時はパソコンや液晶プロジェクタというものはなく、透明フィルムに手書きかコピーで図表などを描き、下からランプで照らしミラーを介してスクリーンに投影していました。その前は図表を写真撮影してブルースライドにして投影機で映す(“Next slide, please.”はここからきている)。そのまた前、金属学会報が発刊されたころは、大きな模造紙に手書き(筆?)で書いて、竹の棒で指して説明していたようです。今ならその場で資料を直せますが、昔は準備に手間がかかりました。概要集も手書きでしたが、かえってそれが人柄や温かみを感じさせてくれました。“指し棒”も竹から金属、レーザと代わり、今ではソフト上で動かしますね。

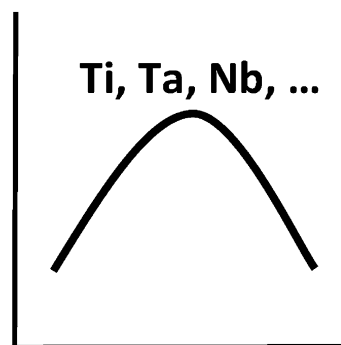
② その場でプレゼン

その先生は直前まで実験されていたらしく、ようやくデータがとれたばかりだったご様子。学生さんに生協に OHP†フィルムを買いに行かせ(当時は OHP でしたね)、サラ(新品)のフィルムをプロジェクタに置いて話し始めました(その時点でザワザワ)。

その場でペンでピューッとグラフを書き「こういう結果になったんですね」と(堂々と)発表されました。話のスジは通っていたのですが、みなさん「こういうやり方もあるのかな」という感じでした。覚えておられる方もおられるかも。

③ 今後の方針

学生さんが発表を終えると、以下の Q&A がありました。
「これらの添加元素を入れた理由は何ですか？」
「センセが入れるといいました」
「今後、この成分をこっち側に振ってみたら特性が更に改善するのでは？」
「やりません」
「なぜですか？」
「ボク、もう卒業するんです」
全員椅子から落ちました…



昨今、こんな“豪傑”はみませんね。

(2021年8月8日受理)[doi:10.2320/materia.60.736]